

研究フォーラム1

多様な言語文化背景をもつ子どもたちの リテラシー発達

— 3つの調査報告から —

主催

基盤研究(C) 23520615「日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する基礎研究—日本語作文の縦断調査—」(代表: 齋藤ひろみ)プロジェクト

基盤研究(C) 23520648「年少者日本語教育の協働的実践研究」

(代表: 池上)摩希子)プロジェクト

- 1 趣旨説明 (齋藤) 13:30
- 2 3科研の報告 13:40
 - ①齋藤ひろみ(東京学芸大学)
 - ②真嶋 潤子(大阪大学)
 - ③池上摩希子(早稲田大学)
- 休憩 15:10-15:25
- 3 パネルディスカッション 15:25-16:50
 - パネリスト 川上郁雄(早稲田大学)
 - 内田千春(共栄大学)
- 4 まとめ (池上) 16:50-17:00

アンケート記入

国内の年少者日本語教育の新たな局面

外国籍児童生徒への日本語教育

⇒文化間移動をし(現地の言語で教育を受ける)

「多様な言語的文化的背景をもつ子どもたち」への

ことばの教育

リテラシー発達の重要性

- ①読み書きの力
- ②学習参加の力としての言語の力
- ③複数の言語・文化の総合力としての言語の力
- ④自律的に学び、自分の明日を切り開く力、
- ⑤異なる他者と協働する力としての言語の力
- ⑥批判的思考力をもち社会を変革する言語の力

OECD: 自らの目標を達成し、知識と可能性を発達させ、社会に参加するためにテキストを理解し、活用し、深く考える能力

キー・コンピテンシー

- ①社会的に異質な集団で交流すること
- ②自律的に活動すること
- ③道具を相互作用的に用いること

多様な言語文化背景をもつ子どもの言語発達を 調査する3つの科研プロジェクト

(1) H22-25年度 科学研究費基盤研究(C) 2352061

「日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する基礎研究—日本語作文の縦断調査—」(代表: 齋藤)

(2) H24-28年度 科学研究費基盤研究(B) 24320094

「外国人児童生徒の複数言語能力の縦断的研究—何もなくさない日本語教育を目指して—」(代表: 真嶋)

(3) H22-25年度 科学研究費基盤研究(B) 22402049

**「日系国際児の二言語形成過程の質的研究」
(代表: 柴山真琴; 大妻女子大学)**

(1) 齋藤科研 報告者: 齋藤

- 外国人集住地域の学校1校の日本生育外国人児童
 - 日本人児童との比較、母国生まれで来日した児童との比較
 - 2-6年生の出来事作文（6年分の作文データ）
 - 横断的な分析と縦断的な分析
学年グループで / 入学年度グループで
 - 量的分析と質的分析
産出量と文の複雑さ / 誤用、表記、語彙、内容分析
- ⇒ 報告

「日本生育外国人児童の作文力の発達—出来事作文の多面的分析を通して」

- ある特定の地域の公立小学校の日本生まれ日本育ちの中国人児童(「ダブル・リミテッド状態」が疑われた)
- 児童の2言語(日本語と中国語)の発達過程
- 4年余りの縦断調査研究
- 「会話力」と「認知力」「読書力」の調査
対話型アセスメントOBCと、DRA-JとDRA-Cで評価
- 「自然習得」「自律学習」による中国語リテラシーの獲得
- 保護者への家庭言語環境調査

報告

「日本の公立小学校で学ぶCLD児の二言語リテラシーの発達－中国語母語話者児童の縦断研究より－」

- ドイツ居住の独日国際児 5人(日本語は継承語)
- 「バイリテラシー形成過程の解明を目指す共同研究」
成果の一部
- 2年間のドイツ語と日本語の課題作文の変容過程
- 観点「文法能力」「談話能力」「読み手に対する意識」
- 縦断的に分析
- 児童の優勢言語であるドイツ語での作文と比較

報告「二言語課題作文の分析結果から見える日本語
で「書く」カー独日国際児のバイリテラシー形成過程
の研究より」

- ①「ことばの力」発達をリテラシーに着目して捉える
- ②個々の子どものリテラシーの発達を追いかける
⇒ 子どもの総合的な発達の一部として
- ③リテラシーの発達を様々な角度から描く
⇒ 「ことばの力」の多面性 総合性
- ④「ことばの力」を多様な方法で調査:補完的に
量的分析と質的分析
横断調査と縦断調査
複数の側面を異なる方法で測定・評価
- ⑤教育文脈に対する積極的な示唆

- **論点1: 多様な言語文化背景をもつ子どもの言語の力を何らかの方法で把握した場合、その結果は、子どもの成長・発達全体を捉える上でどのような意味をもつのか。子どもたちのリテラシー教育の内容や方法の決定に対し、どのようなメッセージをもつのか。**

- **論点2: 学校や家庭でリテラシーの発達を保障する環境を創るには、どのような点が重要なのか。それらは、調査や研究を通して確認されているのか。また、その重要性を説得力をもって社会に伝えていくために、言語能力調査の結果をどのように伝えていくことが期待されるのか。**

言語発達に関する調査結果は、実践文脈に対し何を意味し、何を提案できるのか。